

(3-4) 有事を見据えた体制づくり

施策 3-4-⑫

自主防災組織による避難防災訓練の実施

【取組の概要】

自助、共助、公助による地震・津波災害に強いまちづくりを確認するために、防災訓練を実施します。防災訓練の主体は地方公共団体や自主防災組織、学校、職場等となりますが、自主防災組織が単独で行うばかりでなく、他の自主防災組織や関係各所と合同で行うとより実践的な訓練とすることが可能となります。

「災害は忘れたころにやってくる」といわれていますが、防災訓練に参加していない場合には、万一の時に、慌ててしまったり、パニックに陥ってしまったり、何をすればいいのかわからず右往左往してしまうという人が出てくるのが十分に考えられます。「防災訓練でできないことは、実際の災害時にもできない」といわれていることから、防災訓練の実施を通した中で、課題を見つけていくことが重要です。

防災訓練は、万一の災害発生時にでも、落ち着いて冷静に対処できるようにすることを目的としていますが、「周りの人との協力」の重要性を知ることや資機材等の取り扱いになれることにも効果があります。

防災訓練を行う効果を以下に示します。

- ・ 災害に関する基礎的な知識の取得
- ・ 防災資機材に関する知識の取得
- ・ 災害発生時の各自の役割の確認
- ・ 避難場所及び避難経路の確認

また、訓練の種類は以下のとおりです。

- ・ 情報収集伝達訓練
- ・ 消火訓練
- ・ 避難訓練
- ・ 救出・救護訓練
- ・ 給食・給水訓練

上記を複数含んだ大規模な訓練を総合防災訓練といいます。

【計画、整備にあたっての着眼点・留意点】

- ・ 防災訓練の実施は、次世代へのノウハウの伝達でもあり、次世代の若者の参加を促すことが重要です。
- ・ 防災施設の運用や資機材の利活用には、自主防災組織をはじめ、地域住民の協力が不可欠です。
防災訓練の中で、様々な施設や資機材の使い方の周知徹底を図り、日頃の訓練の中で被災時の

対応力を高めていくことが重要です。

- ・防災訓練を漠然と同じスタイルで継続すると、マンネリ化しやすくなります。クイズを行う、地域のイベントと同時に行う、運動会の種目に取り入れる、夜間訓練の実施等の工夫を行う必要があります。
- ・災害図上訓練の具体的な手法のひとつにDIG (Disaster Imagination Game の略) があります。この方法は、地域で災害が発生する事態を想定し、地図と地図の上にかける透明シート、ペンを用いて、危険が予測される地帯または事態をシートの上書き込んでいく訓練のことです
- ・津波避難計画に基づいた実践的な防災訓練等を実施し、不備な点が明確になれば、津波避難計画の見直しを行うことが必要です。例えば、住民が津波避難タワー等の実際の避難場所で待機の経験をすることや、消防団等の関係者が水門を閉める訓練等が考えられます。

◆参考資料

- ・地方公共団体による図上型防災訓練の実施支援マニュアル(図上型防災訓練マニュアル検討会、総務省消防庁、平成20年3月)

【事例】

○愛知県田原市の取組

・子どもたちが参加した防災訓練の実施

- ・田原市の地域の津波避難訓練では、神社内にある避難経路を利用して、高台へ移動しています。この防災訓練に、次世代を担う子供たちが参加しています。

